

「文学」から離れて文学を考える

「事実」と「フィクション」の間



「事実」Factと「フィクション」Fictionとの違いとは何でしょうか、また区別できるのでしょうか。
 現実がフィクションに働きかけ、またフィクションが現実を動かす、そうしたダイナミックな相互関係のなかで両者をとらえ、
 新たな文学研究の楽しみを発見しようと本講座では試みます。
 今回のシンポジウムでは、ジャーナリスト・評論家として、また地域研究の専門家として第一線で活躍されている
 お二人を外部から講師としてお招きし、本学の英文学研究者とともに議論します。
 18世紀から21世紀まで、クマのパディントンからベトナム戦争まで幅広い視点で「文学」について考えてみましょう。

学園祭
〔常磐祭〕
期間中

2016年10月15日 土

14:00~16:00 13:30より受付開始

実践女子大学渋谷キャンパス
創立120周年記念館5階 502教室

事前申込不要

入場無料

ご参加お待ちしております!

14:00

シンポジウム テーマの紹介
『ガリヴァー旅行記』の修辞学と政治学
島 高行 (司会、本学教授)
実践女子大学文学部英文学科教授。
ジョナサン・スウィフトを中心に近代イギリス小説を研究。

14:30

開高健とベトナム戦争
武田 徹 (評論家、ジャーナリスト)
ジャーナリスト、評論家。ジャーナリストとして活動する一方、メディア論やノンフィクション論など幅広い分野を対象に評論活動を行う。現在、朝日新聞の書評委員としても活躍。『流行人類学クロニクル』により2000年度サントリー学芸賞受賞。近著は『暴力的風景論』など。

14:55

21世紀のコンゴ民主共和国で
『闇の奥』を読む
武内 進一 (日本貿易振興機構アジア経済研究所 地域研究センター長)
日本貿易振興機構アジア経済研究所 地域研究センター長。アフリカ研究の専門家。特にルワンダやコンゴについては日本の第一人者。『現代アフリカの紛争と国家 ポストコロニアル家産制国家とルワンダ・ジェノサイド』により2009年度サントリー学芸賞受賞。近著は『ジェノサイドと現代世界』(共著)など。

15:20

こぐまとしての移民
—『パディントン』から見る現代イギリス
土屋 結城 (本学准教授)
実践女子大学文学部英文学科准教授。
トマス・ハーディを中心に近代イギリス小説を研究。

15:45

シンポジウム講師によるディスカッション

- 会場 実践女子大学 渋谷キャンパス
- 交通アクセス 渋谷駅 東口(東急南口) 徒歩約10分
表参道駅(地下鉄) B1出口より徒歩約12分
(駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください)
- お問合せ 実践女子大学学務部庶務課
TEL: 03-6450-6817
Mail: kokai-koza@jissen.ac.jp
HP: http://www.jissen.ac.jp/kokaikoza/
- 主催 実践女子大学・実践女子大学短期大学部公開講座委員会
- 後援 渋谷区教育委員会
- 協力 実践英文学会

